

**【特別講演5】 第18席****「張介賓の学術について」**

東京 長谷部 英一

張介賓（1563～1640）は、明末に活躍した医学者で、『黄帝内経』の研究者として名高い。彼の著した『類経』は、『素問』と『靈枢』の原文を、内容の性質により12類に分類し、さらに詳細な注を付したもので、『黄帝内経』研究の重要な参考文献となっている。

この『類経』には、『類経図翼』と『類経附翼』という続編があり、どちらも『類経』の注の不足を補ったものである。ところが、『類経図翼』の巻1・2の「運氣」や『類経附翼』の巻1「医易」・巻2「律原」などは、中国における易学・天文学・音律学などの理論を述べたものであり、医学書としては特異なものとなっている。しかし、これらはいずれも中国思想史における非常に重要な学問であり、張介賓がこれほど広い分野の学問を扱っていることは、注目に値する。

今回の発表では、張介賓の著作に述べられている易学・天文学・音律学の理論をもとにして、張介賓の思想の一端を紹介したい。